

## 2. 後期 (2011/9/26~10/7) 全日程 AM9:30~16:30

日時	講座名	講師名	時間数	備考
9/26 (月)	プレパレーション&ディス トラクションⅡ	井上絵未(3)/ 桑原和代(3)	6	
9/27 (火)	研究方法 I 治癒的遊びⅡ	田中恭子 山地理恵	2 5	
9/28 (水)	療養環境	松井基子	6	
9/29 (木)	グリーンケア	伊藤麻衣/ 花 谷 香 織	6	
9/30 (金)	家族・兄弟姉妹の支援	石田智美	6	
10/3 (月)	病院システム 研究方法論	林 富 小澤美和	3 3	
10/4 (火)	子どもとおもちゃ 医療保育士との協働	多田千尋 中村嵩江	4 2	
10/5 (水)	プログラムの運営・管理	世古口さやか	6	
10/6 (木)	特別講義「子ども療養支援士 にのぞむこと」 多職種との連携	細谷亮太 及川郁子	2 3	
10/7 (金)	子ども療養支援概論Ⅰ	藤井あけみ	6	
10/8 (土)	まとめ&子ども療養支援概 論Ⅱ	藤井あけみ	6	

\* ( ) 内はそれぞれの時間数

### 3. 子ども療養支援士 養成プログラム マンスリーセッション予定表

日程：2011年～2012年、該当月の第4土曜日 12:00～18:00

時間数：6時間（1日）×8回＝48時間

内容：ケーススタディ、ディスカッション、ロールプレイ、病院見学など

場所：東京、大阪他

担当：各教育委員

日時	主な担当者	内容（空欄は追って連絡）	会場
5/28	後藤・早田・伊藤		大阪・東京
6/18	教育委員		東京
7/30	後藤・伊藤		大阪
8/27	後藤・早田・伊藤・ 田中		大阪・東京
10/8	教育委員		東京
11/26	後藤・伊藤		大阪
1/28	後藤・早田・伊藤・ 田中		大阪・東京
2/25	教育委員全員	研修報告会	東京
3/17	教育委員全員	認定コース修了式	東京

## 子ども療養支援士 認定コース（実習）について

実習先：大阪府立母子保健総合医療センター、順天堂大学医学部附属順天堂医院、他。

実習担当：後藤真千子、早田典子、伊藤麻衣、田中恭子 他。

実習時間：700 時間以上とする。

### <実習のねらい>

- ・ 人間の成長と発達、家族のダイナミクス、文化的背景に関する理論的根拠に基づいて、子どもや家族のニーズをとらえて分析し、子どもや家族とコミュニケーションを取る能力を習得する。
- ・ 新生児から青少年期にいたるあらゆる年齢層の子どもについて、個人またはグループで安全に治癒的遊びができる環境を提供する能力を習得する。
- ・ 子どもとその家族が、入院や、親子分離、罹患、死との直面などから生じるストレス状態にあるとき、ストレス軽減に向けた支援を行う能力を習得する。  
(ストレスコーピング・プレパレーション・ディストラクション・グリーフケア・家族支援・兄弟姉妹支援)
- ・ 多職種の役割を理解すると共に、多職種に子ども療養支援士の専門職としての役割を具体的に説明し、子ども療養支援士の活動を小児医療の一環として組み入れることを学ぶ。
- ・ 子ども療養支援士の専門職としての役割、および小児医療における心理社会的問題について第三者に説明し、伝える能力を習得する。
- ・ ボランティア等を監督し、支援する能力を習得する。
- ・ 子ども療養支援士の活動を評価する能力を習得する。

授業科目	子ども療養支援概論 I		
担当教員	藤井あけみ		
時間数	6 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> 1 子ども療養支援士とは 子ども療養支援士の理念および目的について考え語り合う 2 心理社会的援助論 子ども療養支援士の業務の中心となる心理社会的援助とは何かを考察する 3 現代の子ども事情 現代の子どもの在り方と子どもを取り巻く環境を検証し、自らの使命を考える			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> 講義及びディスカッション			
<b>テキスト・参考文献</b> テキスト(教科書) 『チャイルド・ライフの世界』(藤井あけみ 新教出版社)『こどもにやさしい病院』(藤井あけみ 小学館)、『幸福のレシピ』(藤井あけみ 新教出版社) 参考文献 『いのちの時間』(藤井あけみ訳、新教出版社)『脳内汚染』(岡田尊司 文春文庫)			
<b>成績評価の方法・基準</b> ディスカッションとレポートによって評価する			
<b>備考</b> 受講前にテキストと参考文献はよく読み、当日持参すること			

授業科目	アセスメント/記録法		
担当教員	田中 恭子		
時間数	6 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> 1. 健常児の基本的な発達を知り、実際に観察することで総合的にアセスメントする力を養う。 2. 病児特有の心理情緒的反応と疾病が発達に及ぼす影響など、それらの特徴を知る。 3. 療養環境におけるこどもと家族を第三者的に観察し、こどもの身体状況、心理発達状況に適した遊び 支援の計画を行い、実行する力を養う。  ①こどもの成長と発達概論 ②様々な発達領域とその年齢における特徴を学ぶ ③アセスメントの意義とその具体的方法を学ぶ ④記録のとり方のポイントを学ぶ			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> 講義およびPBL方式によるディスカッション			
・Richard H., Thompson(2009) The Handbook of Child Life: A Guide for Pediatric Psychosocial Care ・Mark Nennet, Child as a psychologist. 心の理論・発達心理学 福村出版 ・小児看護 2006年5月号, プレパレーションの理論と実際, 第29巻第5号, へるす出版 ・田中恭子編著 プレパレーションガイドブック 日総研出版 2006 ・その他文献等			
<b>成績評価の方法・基準</b> レポート 800字			
<b>備考</b>			

授業科目	治癒的遊び I		
担当教員	三浦 絵莉子		
時間数	6 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> 何らかの疾患や障害によって、入院や手術などの治療生活を余儀なくされた子どもや子どものいる家族の実態に触れ、療養環境下における様々な肉体的および精神的苦痛が、子どもの成長発達に及ぼす影響について理解する。またアメリカのCLSやイギリスのHPSが考える遊びや遊びがもつ治癒的効果について理解する。グループワークによる演習を多く取り入れることにより実践的な学びを深め、現場の様々な問題解決にも対応できる子ども療養支援士としての専門性や実践力の獲得を目指す。			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> テキスト・参考文献や配布資料をもとにした講義 グループワークによるディスカッション・演習・ロールプレイなど			
<b>テキスト・参考文献</b> 野村みどり編：プレイセラピー こどもの病院&教育環境 建築技術社、東京、1998 藤井あけみ：チャイルド・ライフの世界ーこどもが主役の医療を求めてー、新教出版社、東京、2000 パメラ・バーンズ女史招聘セミナー実行委員会： パメラ・バーンズ女史招聘セミナーテキスト、メディカ出版編集制作、大阪、2009 Child Life Council and Comitee on Hospital Care: Child life services, PEDIATRICS 2006;118;1757-1763, 多田羅竜平訳(未出版) Hart , Rollins: Therapeutic Activities for Children and Teens Coping with Health Issues,Wiley ,2011			
<b>成績評価の方法・基準</b> 出席状況および態度 提出課題 演習などでの参加態度			
備考			

授業科目	医療環境における子ども		
担当教員	鈴木 敦子		
時間数	3 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児医療の流れを概観し、入院により子どもが受ける影響を考える。</li> <li>・わが国の小児医療の現状を知る。</li> <li>・UKのプラット報告をもとに、子どもにとって望ましい医療環境のあり方を考える。</li> <li>・小児の医療環境調査と入院している幼児後期の子どもへの聞き取り調査を通して、彼らが求めていることを理解する。</li> </ul>			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> 資料をもとに討論をしながらすすめる。			
<b>テキスト・参考文献</b> ・入院児の遊びの状況とエデュティメント的視点からの遊びの提供 平成10年度および20年度 研究報告(お渡しします)			
<b>成績評価の方法・基準</b> ・討論参加度(50%)とレポート(50%)			
<b>備考</b>			

授業科目	医療環境における子どもと家族		
担当教員	福島 慎吾(難病のこども支援全国ネットワーク)		
時間数	3 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> 難病の子どもとその家族のために ～難病のこども支援全国ネットワークの活動～ ○難病とは ○難病ネットワークについて ①ピアサポート ②プレイリーダー [映像]「みんなが主役！がんばれ共和国」  難病や障害のある子どもと家族への支援 ～家族から見た難病の子どもと地域のつながり～ ○なぜ家族支援？ ○一事例から見えてくること ○専門職に対して望むこと [映像]「自立するための電動車いす」			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b>  講義、映像鑑賞			
<b>テキスト・参考文献</b>  配布資料： ①「難病の子どもとその家族のために」 ②「家族から見た難病の子どもと地域のつながり」 ③「素人専門家との協働のすすめ」  参考資料 「小児難病親の会ハンドブック2010」、難病のこども支援全国ネットワーク編			
<b>成績評価の方法・基準</b>  授業への参加			
<b>備考</b>			



授業科目	ストレスコーピング		
担当教員	平田美佳		
時間数	4 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> <b>【ねらい】</b> ストレスに関する理論の概要を理解し、子どもの成長発達や生活との関連性、子どもの病気や障がい・入院との関連性を検討し、子ども療養支援士としてどのように子どもたちを支援できるかを考察する。 <b>【内容】</b> 1 ストレスとは何か、コーピングとは何か、基本的な知識を取得する 2 子どものストレス、コーピングの特徴を、子どもの成長発達、現代社会での生活と関連付けて理解する。 3 子どものストレス、コーピングの特徴を、子どもの病気や障がい・入院生活と関連付けて理解する。 4 事例を用いて、病気や障がいをもち療養している子どもたちのストレス・コーピングを支える具体的な方法について考える。			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> 講義(3時間)、事例を用いたグループ討議(1時間)で構成します。			
<b>テキスト・参考文献</b> <b>【参考文献】</b> * 事前にテキストを購入する必要はありませんが、以下の文献および講義の中で紹介した書籍や論文を、実習や課題レポートの中で活用してください。 ●リチャード・S・ラザルス、スーザン・フォルクマン著(本明寛、春木豊、織田正美監訳):ストレスの心理学[認知的評価と対処の研究]. 実務教育出版, 1991. ●子どものストレス・コーピング. 雑誌 児童, 2010 12月号			
<b>成績評価の方法・基準</b>			
<b>備考</b> 事前に配布する事例に関する資料については、準備学習として一読してから講義に参加してください。また、講義や事例を用いた討議のなかで、各受講生の過去の子どもの関わりの経験についての発言を求めますので、子どもとストレスに関する経験を、各自振り返って授業に臨んでください。			

授業科目	医療安全		
担当教員	平田美佳		
時間数	2 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> <b>【ねらい】</b> 医療現場で子どもに起こりやすい事故、病院でのリスクマネジメントのシステムについて理解し、子どもの安全・安寧を守るという子ども療養支援士としての役割を考察する。 <b>【内容】</b> 1 生活の中で子どもに起こりやすい事故、またその予防対策について、一般的な知識を習得する。 2 病院の中で子どもに起こりやすい事故、またその予防対策について基礎的知識を習得する。 3 病院のリスクマネジメントの実際について理解し、子ども療養支援士として事故時にどのような行動をとる必要があるかについて理解する。 4 事例を用いて、病気や障がいもち療養している子どもたちの安全・安寧を守るという子ども療養支援士としての責務について考える。			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> 講義(1時間)、事例を用いたグループ討議(1時間)で構成します。			
<b>テキスト・参考文献</b> <b>【参考文献】</b> * 事前にテキストを購入する必要はありませんが、講義の中で紹介した書籍や論文を、実習および課題レポートの中で活用してください。			
<b>成績評価の方法・基準</b>			
<b>備考</b> 事前に配布する事例に関する資料については、準備学習として一読し、自分の考えを持って講義に臨んでください。			

授業科目	発達心理学		
担当教員	井原成男		
時間数	時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> 発達心理学を、臨床的観点から見る。また、小児科に必要な発達心理学の知識について、いくつかのコンセプトを理解する。			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> 概要をプレゼン、その後討議。また、テキストについての質疑応答により、知識を確実にする。			
井原成男:親と子の心のカルテ 新興医学出版社 著者割引で、たぶん1800円くらいになります。			
<b>成績評価の方法・基準</b> レポート			
<b>備考</b>			

授業科目	<b>遊びと環境</b>		
担当教員	鈴木 裕子		
時間数	6 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> ねらい 子どもの遊びについて理解すると共に、子どもを取り巻く環境について理解する。 支援者としての視点から子どもの遊びと環境について捉える。 内容 発達期の子どもにとって、遊びの意義や遊びが果たす役割等について整理する。 また、子どもを取り巻く環境をシステムとして捉えると共に、子どもの遊びとの関係から環境を考える視点について述べる。 さらに子どもたちの遊びと環境設定等における、支援者としての実際的な活動や配慮等について考えたい。			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> 子どもの遊びについて、及び環境についての概論を講義後、実際的な内容については演習で行なう。			
<b>テキスト・参考文献</b> 当日授業資料を配布			
<b>成績評価の方法・基準</b> 講義・演習の出席と参加状況 課題レポート			
<b>備考</b>			

授業科目	プレパレーション&ディストラクション I		
担当教員	桑原和代 ・ 井上絵未		
時間数	6時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> <p>プレパレーションの定義、目的、アセスメント、計画、実践方法、評価方法を、理論と実践を結びつけながら理解することを目指す。          プリパレーションを支える理論として、Informational Approaches(子どもに情報を提示するアプローチ)、Behavioral Approaches(子どもの行動や周囲の環境に働きかけるアプローチ)、The Stress-Coping Framework(ストレス対処へのアプローチ)の基礎を学ぶ。子どもの発達段階や子どもと家族の状況に合わせてニーズを把握し、プレパレーションの実施方法を選択して、子どもや家族が主体的に状況に対処していくプロセスを支援するために必要なスキルを学び、実践につなげる。          また、コーピング方法の1つとして、ディストラクション法の基礎知識・技法を学び、プレパレーションと処置中の支援に役立てる。</p>			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> <p>講義形式で理論等を学ぶ          プレパレーションの実際の様子や物品をみてイメージをつける          子どもの視点を感じるための演習          使う物品・言葉についての意見交換</p>			
<b>テキスト・参考文献</b> <p>☆Rollins, A. Judy., Bolig, Rosemary., Mahan, C. Carmel.(2005) Meeting Children's Psychosocial Needs:          Across the Health-care Continuum          ☆Richard H., Thompson(2009) The Handbook of Child Life: A Guide for Pediatric Psychosocial Care          ☆小児看護 2006年5月号, プレパレーションの理論と実際, 第29巻第5号, へるす出版          ☆相吉恵(2010): 子どもの発達と「麻酔」のとらえ方からかわりを考える—麻酔科医とCLSの連携—,          日本臨床麻酔学会誌, 29(7), 771-779  <a href="http://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsca/29/7/771/_pdf/-char/ja/">http://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsca/29/7/771/_pdf/-char/ja/</a></p>			
<b>成績評価の方法・基準</b> <p>レポート1600字程度</p>			
<b>備考</b> <p>プレパレーション&amp;ディストラクション IIに向けた課題の提示する</p>			

授業科目	病院システム・医学用語		
担当教員	蝦名美智子		
時間数	4 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> 目標:看護部の組織を知り,看護師とスムーズに連携を図れるようにすること  1 看護部の仕組みが分かる. 2 病棟の仕組みが分かる. 3 看護体制が分かる. 4 病棟でよく使われる看護用語が分かる.			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> 講義及びディスカッション			
<b>テキスト・参考文献</b>			
<b>成績評価の方法・基準</b> 参加態度とレポートによって評価する			
<b>備考</b>			

授業科目	医療における子どもの人権		
担当教員	増子孝徳		
時間数	4 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> 1 子どもの権利について 「子どもの権利」の基本的な理解を習得する。子どもの権利条約及び日本国憲法の関連する規定を理解する。 2 患者の権利について 自己決定権保障を中心とする「患者の権利」の基本的な理解を習得する。患者の権利に関する諸宣言の基礎知識を習得する。 3 医療を受ける子どもの人権 ①親の付き添い、②遊び、教育への完全参加、③説明及び決定への関与などが、医療を受ける子どもに保障されるべき人権であることを理解する。それぞれの課題が、子どもの権利条約などに根拠のある人権問題であることを理解する。			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> 講義(3時間)及びレポート作成(1時間)			
<b>テキスト・参考文献</b> テキスト(教科書) 『医療における子どもの人権』(栃木県弁護士会編、明石書店) 参考文献 『子どもの医療と生命倫理』(玉井真理子他編、法政大学出版局)			
<b>成績評価の方法・基準</b> 受講態度及びレポートの内容によって評価する			
<b>備考</b> 講義では、日本国憲法及び子どもの権利条約の条文を参照します。各自、条文を参照できる資料(六法が望ましいが、当該条文を掲載したサイトからのダウンロードでも構わない)を用意して下さい。			

授業科目	医療における子どもの人権・子ども療養支援士の使命と展望		
担当教員	藤村 正哲		
時間数	2 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> ・医療職の種類と役割を理解することによって、チーム医療における子ども療養支援士の役割を位置付ける。 ・小児医療の提供体制、仕組みについて理解することによって、子どもが本病院で受けている医療と全体の医療の関係を位置付ける。 ・病気を症状、検査、治療、予後などの見方から理解することによって、子どもの診療の段階を位置付ける。 ・痛み、呼吸困難等の身体的ストレスの生理学について学ぶ。 ・検査、治療のおおまかな種類について学ぶ。			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> 講義形式			
<b>テキスト・参考文献</b> なし			
<b>成績評価の方法・基準</b> 未定			
<b>備考</b>			



授業科目	プリパレイション&ディストラクションⅡ		
担当教員	井上絵未・桑原和代		
時間数	6時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> <p>プリパレイション&amp;ディストラクションⅠや実習で学んだ理論や技法を基に、受講者自身がアセスメント・プラン・介入・フォローアップを実際の現場で展開できることを目指す。          受講者自身が考えた介入方法をロールプレイとして発表することで臨床での関わり方の準備や振り返りを行う。          また、他者との意見交換を行うことで、1つの場面でも限定された介入のみにとらわれず、様々な関わりができることを学び、実践力へと繋げていく。</p>			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> <p>プリパレイション&amp;ディストラクションⅠで提示された課題の中から、各自が取り組んだ課題をロールプレイという形式で発表する。それぞれの内容についての意見交換を行う。</p>			
<b>テキスト・参考文献</b> <p>☆Rollins, A. Judy., Bolig, Rosemary., Mahan, C. Carmel.(2005) Meeting Children's Psychosocial Needs:          Across the Health-care Continuum          ☆Richard H., Thompson(2009) The Handbook of Child Life: A Guide for Pediatric Psychosocial Care          ☆小児看護 2006年5月号, プレパレーションの理論と実際, 第29巻第5号, へるす出版          ☆相吉恵(2010):子どもの発達と「麻酔」のとらえ方からかわりを考えるー麻酔科医とCLSの連携ー,          日本臨床麻酔学会誌, 29(7), 771-779  <a href="http://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsca/29/7/771/_pdf/-char/ja">http://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsca/29/7/771/_pdf/-char/ja</a></p>			
<b>成績評価の方法・基準</b> <p>レポート1600字程度</p>			
<b>備考</b>			

授業科目	研究方法		
担当教員	田中恭子		
時間数	2	時間	2
		区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> 1. 海外を中心としたプレパレーションの先行研究からその実益について検証する 2. 文献等から適切なアセスメントの手法を学ぶ 3. 評価方法である、生理学的、生化学的評価、行動観察法、セルフレポート手法などの方法を学び、結果から考察を導く理論を学ぶ 4.倫理的側面の強いケアに対する科学的研究の限界とその必然性についてを論じる			
<b>講義形式および論文抄読及びディスカッション</b>			
<b>テキスト・参考文献</b> ・Richard H., Thompson(2009) The Handbook of Child Life: A Guide for Pediatric Psychosocial Care ・CLC inc, Psychosocial care of children in hospitals; A clinical practice manual ・小児看護 2006年5月号, プレパレーションの理論と実際, 第29巻第5号, へるす出版 ・田中恭子編著 プレパレーションガイドブック 日総研出版 2006 ・その他文献等			
<b>聴講及びディスカッション態度など</b>			

授業科目	治癒的遊び II		
担当教員	山地理恵		
時間数	6 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> 何らかの疾患や障害によって、入院、手術や通院などの治療生活を余儀なくされた子どもや子どもがいる家族の実態に触れ、療養環境下における様々な身体的(肉体的)および精神的苦痛が、子どもの成長発達に及ぼす影響について理解する。治癒的遊び I と実習を通じた学びから、遊びがもつ治癒的効果について理解する。グループワークによる演習を多く取り入れることにより実践的な学びを深め、現場の様々な問題解決にも対応できる子ども療養支援士としての専門性や実践力の獲得を目指す。			
<b>授業の進め方(授業形態を含む)</b> テキスト・参考文献や配布資料をもとにした講義 グループワークによるディスカッション・演習 ポートフォリオの⑤遊びケアプログラムを持ち寄りグループで検討、演習			
<b>テキスト・参考文献</b> 野村みどり編:プレイセラピー こどもの病院&教育環境 建築技術社、東京、1998 藤井あけみ:チャイルド・ライフの世界ーこどもが主役の医療を求めてー、新教出版社、東京、2000 パメラ・バーンズ女史招聘セミナー実行委員会:パメラ・バーンズ女史招聘セミナーテキスト、メディカ出版編集制作、大阪、2009 Child Life Council and Comitee on Hospital Care: Child life services, PEDIATRICS 2006;118;1757-1763, 多田羅竜平訳(未出版) Hart , Rollins,Therapeutic Activities for Children and Teens Coping with Health Issues,Wiley ,2011			
<b>成績評価の方法・基準</b> 出席状況 提出課題 演習などでの参加態度			
備考			

授業科目	療養環境		
担当教員	松井 基子		
時間数	5 時間	区分	前期 ・ 後期
<b>授業概要(授業のねらい・内容)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動や発達に与える環境の影響について学ぶ。</li> <li>・療養環境において、行動・発達・回復に影響を与えうる要因について学ぶ。</li> <li>・療養環境における、役割の違う各エリアごとの留意点を考察する。</li> <li>・支援者として、環境デザインプロセスにおける役割について考察する。</li> <li>・先進的な取り組みについて知る。</li> </ul>			
<b>授業の進め方(受領形態を含む)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> </ul>			
<b>テキスト・参考文献</b> Meeting Children's Psychosocial Needs Across The Health-Care Continuum Judy Holt Rollins, Rosemary, Ph.D. Bolig, Carmel C. Mahan (著)			
<b>成績評価の方法・基準</b> ディスカッション、グループワークでの参加内容から(積極的参加姿勢、発言内容、グループ機能等)評価。			
<b>備考</b> その他、施設の療養環境に関するDVDや写真等、講師が適宜用意します。			